

#痴漢ゼロ東京

#誰にとっても安全な東京へ

『日本共産党の政策提案』

1 都政で本気の対策を！

- ① 東京都として被害の実態を把握する
- ② 被害者を責める空気を一掃する
- ③ 相談・通報先をわかりやすく発信する
- ④ 「性暴力救援センター」を周知する
- ⑤ 都庁にジェンダー平等推進局をつくる

都議会で初！ 今年2月、共産党の米倉春奈都議が、痴漢の問題を本会議で初めて全面的に質問。知事も「ダメージを受けるにもかかわらず声に出しづらいことが多い」と深刻さを認めました。



▲ 質問詳細はこちら

- まずは事実の把握を。
- 積極的なメッセージの発信を。
- ポスター、ステッカー、動画 etc.
- 医療・カウンセリングの公費支援も周知を。
- 包括的に取り組む体制を！

2 電車内の安全の確保を！

- ① 都営地下鉄に女性専用車両をつくる
- ② ホームに駅員を増配置する
- ③ アプリで被害を通報できるように

- 今は新宿線だけ。拡大を。
- 被害の多い路線・時間帯に。
- JR東日本が実証実験を予定。都でも検討を。

3 加害をなくすプログラムを！

- ① 学校での性教育を充実させる
- ② 加害者への専門治療を

- 加害者も被害者も生まないために。
- 専門家と連携して再犯防止プログラムを。

共産党ってどんな党？

ジェンダー先進都市・東京を一緒につくろう！

都議会では野党第1党

自民党
25議席

共産党
18議席

女性議員比率 No.1
(主要会派中)



動かしたジェンダー政策

- ▶若い女性を性的搾取から守る支援事業を実現。2021年度は予算3倍化
- ▶認可保育園を7年間で1410カ所増!
- ▶不妊治療の助成を拡充
- ▶下着チェックなど人権侵害の理不尽な校則を都議会・国会で大問題に
- ▶都の災害用備蓄生理用品27万枚配布

あなたの声をお寄せください。
日本共産党東京都委員会ジェンダー平等委員会
✉ gender.jcptkyo@gmail.com

東京
民報

東京民報 2021年5・6月号外
日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行：東京民報社 東京都港区芝1-4-9平和会館5階

#痴漢ゼロ東京

#誰にとっても安全な東京へ

暴力も差別もない、
ジェンダー先進都市・東京へ。

あなたの声を、聞かせてください。

私たちの社会は、日々たくさん起きている痴漢という性暴力について、正面から語り合っていませんでした。

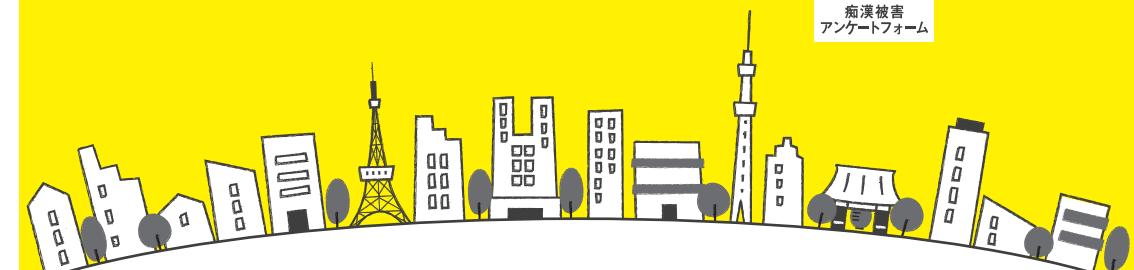
痴漢は、性差別に基づく暴力であり、人権の問題であり、本来一つもあってはならない性犯罪です。ところが、この東京では、いまも加害と被害が繰り返し生まれています。

もう、終わりにしたい。性被害によって傷ついたり、人生に大きな打撃を受ける人を一人も生まない東京をつくりたい。私たち日本共産党は、あなたの声を受け止め、現状を変えていくために全力をつくします。

日本共産党TOKYOジェンダー平等委員会



痴漢被害
アンケートフォーム



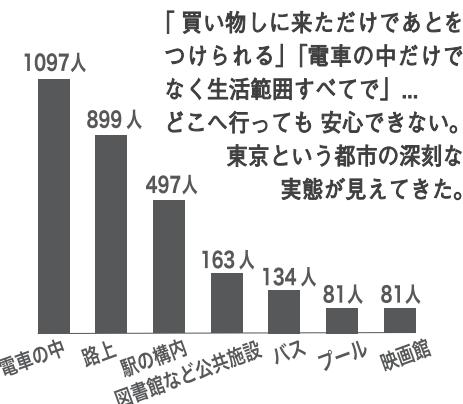
「痴漢被害についてのアンケート」第一次集約結果

私たちが行なっているwebアンケートには、2020年8~11月にの期間に1435人から回答が寄せられ、深刻な被害の実態がびっしりとつづられていました。

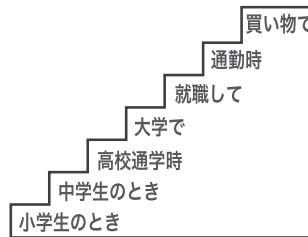
中面へ

>>>

01 あらゆる生活空間で

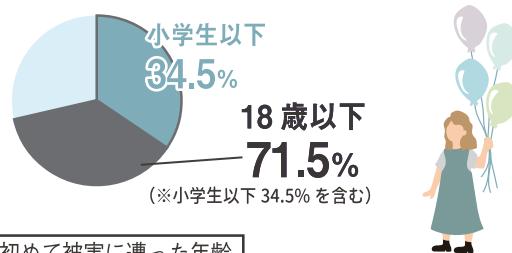


02 何度も何度も



「覚えきれないほど日常的にある」「高校3年間の行き帰り、ほぼ毎日」... 一人の人が人生のなかで何度も何度も被害にっている。

04 子どもがターゲットに



初めて被害に遭った年齢

初めて被害を受けた年齢は、18歳以下が7割。
「子ども・未成年への性暴力」として特別な対策も急務だ。

被害者を黙らせる

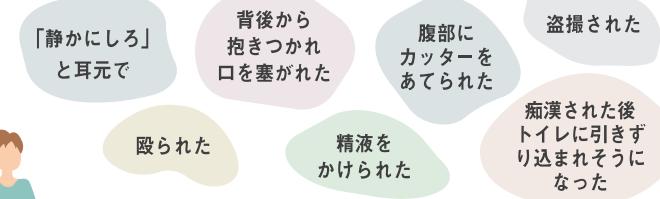
被害を誰にも話せなかった人が約4割。 話せた場合も、被害を軽視されたり、逆に被害者が責められるなどさらなる打撃となったケースが多数。「減るものじゃない」「被害者にも落ち度が」 「そんな無理解と偏見が、加害を野放しにし、被害者の口を塞いでいる。

セカンドレイブニ 次 被 害

気に入らないことだ
触られるうちが葉
そんな格好しているから...
なんで逃げなかったの?

そのひと言ちょっと待って!
被害者を責める社会を変えよう。

03 暴力、脅し、盗撮も



刑法に抵触するもの、その未遂と見られるものも多数寄せられた。「怖かった」「気持ち悪かった」「悔しい」「尊厳を踏みにじられた」... 深い傷が。

痴漢被害アンケートに寄せられた

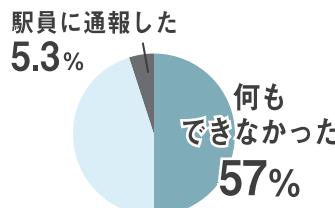
1435人の声

詳しい結果は
こちらから

女性 83%、男性 3.1%、シス
以外 7.0%。A4で400ページ
に及ぶ膨大な声が寄せられた



05 「何もできなかつた」



被害にあった時どうしたか

「周りが助けてくれた」は 6.4%。
孤立し、ほとんど声をあげられない実態も浮かんだ。警察や公的機関に通報したことがある人は 5.3% ときわめて少數だった。



06 その後の人生に打撃

- 電車に乘ろうとすると過呼吸になり仕事を辞めた
- 15年以上、一人で外出したことありません
- 頻繁なフラッシュバックで受験勉強に支障
- 学校に行けなくなったり
- 好きな服を着なくなったり
- 男の人が怖くなったり
- 病院に行かなくなったり



「思い出したくない」という記述も多数。
一人一人の人生に深刻な打撃を与え続けている。

痴漢は性暴力。
ひとつもあってはならない。



これまで、被害者は沈黙させられてきた。今回アンケートに届けていただいた一人ひとりの声が、現状を変えていく大きな力です。相手をモノのように扱う性暴力は、性差別の一種であり、男女間の不平等な力関係のあらわれ。性暴力を終わらせるのは政治の責任です。ジェンダー平等先進都市の東京、誰にとっても安全な東京へ！ご一緒に変えていきましょう。

ジェンダー平等委員会責任者 前衆議院議員 池内さおり



「ジェンダー平等
パンフレット」
ぜひご覧ください